

## 生成A Iの教学面の取扱いに関する指針 Ver. 1

### 1 生成された文章を批判的態度で取扱うこと

ChatGPTやBardなどの生成A Iは、ネット上の大量のコンテンツから自然言語処理によって文章を作り出していくものです。つまり、生成された文章は自然言語の形式にはなっていますが、語句どうし組合せの確率が高いデータを並べているに過ぎず、その内容が正しいものであるかどうか、倫理上問題がないかについて批判的な態度で取扱う必要があります。

### 2 生成された文章をそのまま自己の学修成果として提出・公表しないこと

生成A Iによって出力された文章をそのまま自分自身の学修成果としてのレポート等に用いると、意図したものではなかったとしても、剽窃・盗用として不正行為に位置づけられます。出典（引用元）をChatGPTとしてもそれは無効です。

### 3 機密情報・個人情報等の入力避けること

生成A Iは、入力されたデータも学習の対象としていく仕組みになっています。機密情報や個人情報等を入力すると、それはA Iにとって学習データとして蓄積され、流出・漏洩する危険性があります。

### 4 著作権の侵害に注意すること

生成A Iによって出力された文章が、既存の著作物の権利を侵害していないか注意が必要です。引用であれば、正確に出典を示す必要があります。

### 5 新しい技術を使いこなす

生成A Iなどの新しい技術は、今後も開発が続けられていきます。ワープロが開発された時に文章はペンによる手書きでなければならないとの主張がありました。しかし、それは現在の状況を見ればナンセンスなものであったことは明白です。開発された技術は積極的に使いこなしていくことが大切です。それを使うに当たって、上の1～4に示したような点に注意してください。

### 6 指針の今後の在り方について

今後も生成A Iについては、社会の状況や人々の考え方によって使い方が大きく変化するものと考えられます。それらに沿ってこの指針は随時改訂されることが予想されますので、あらかじめ承知しておいてください。